

平成28年7月17日
今週のベストショット



青松園B 三苦フレンズ 対 奈多フェニックス戦
ナイスリリーフと逆転サヨナラ2ランを放ったフェニックス松本選手。
写真 ソルトベイスターズ 田中裕次郎

青松園B 劇的、フェニックスサヨナラ勝ち！

三苦フレンズ (0勝5敗) 0 1 3 0 0 0 4 山口●一生野
奈多フェニックス (4勝1分) 2 0 0 0 1 2 X 5 今林(勇)、松本○-実延(新)

HR: 西藤、松本(奈多フ) 2BH: 田中(三苦フ)

一回裏、奈多フェニックスは先頭西藤選手が相手エラーで出塁し二塁へ。続く今林(勇)選手はセンター前タイムリーヒットを放ちフェニックスが先制。二死二塁となったところで五番実延(新)選手のショートゴロエラーの間に今林(勇)選手が生還し初回到2点を挙げる。対するフレンズは二回表二死から六番田中選手がライトへ二塁打を放つと七番太田選手のショートフライエラーの間にホームインし1点を返す。さらにフレンズは三回表、突如制球を乱した今林勇投手から三連続四球を選び無死満塁とする。一死から四番山口選手のセンターフライが落球を誘い二者が生還し逆転。さらに相手のミスにより1点を追加し4対2とする。フェニックスは五回表に交代した松本投手が好投し反撃のチャンスを得る中、五回裏一番西藤選手が左中間を破るホームランを放ち1点差とする。そして六回裏、先頭の実延(彰)選手が三遊間を破るヒットで出塁する。しかし続く打者が連続三振で二死となり敗色濃厚の雰囲気。続いて打席に立った松本選手は山口投手の速球を見事捕らえた打球は鋭いライナーで左翼越え。これが見事ホームランとなりフェニックスが劇的逆転サヨナラ勝ちを飾った。

(記事、写真 ソルトベイスターズ 田中裕次郎)



フレンズ先発の山口投手。



一回裏、先制タイムリーのフェニックス今林勇太選手。



一回裏、タッチを掻い潜ってホームインする今林勇太選手。



二回表、反撃のホームイン、フレンズ田中選手。



三回表、ホームを狙うも挟殺にあうフレンズ山口選手。



四回表、リリーフで好投するフェニックス松本投手。



四回裏、実延新伍選手の打球は三遊間を抜ける。



五回裏、反撃のHRを放ったフェニックス西藤選手。



五回裏、ファールフライに飛びつくフレンズ太田三塁手。



六回表、フェニックス西藤三塁手の華麗な守備。



しぶとく全打席出塁のフレンズ田中選手。



見事サヨナラホームランのフェニックス松本選手。



逆転サヨナラHRを放ち祝福されるフェニックス松本選手。



逆転サヨナラHR&勝利投手のフェニックス松本選手

青松園A 日曜朝はサンデーズ！

雁ノ巣ライナーズ (3勝1敗1分) 1 0 1 0 0 2 有馬●-山崎
 奈多サンデーズ (4勝1敗) 3 3 3 2× 1 1 江口○、砂場-長浜

HR: 明瀬航 (雁ノ巣) 2BH: 川上、宮口 (奈多サ)

前日の雨で開始が心配されたものの、日曜の朝はまずまずのコンディションとなり試合開始。先攻雁ノ巣ライナーズは先頭打者が倒れるも、二番明瀬航選手の痛烈な打球が左中間への本塁打となり先制点を挙げる。しかし奈多サンデーズ先発の江口投手は、続く三、四番を外野フライに打ち取りこの回を最少失点で切り抜けた。一方のサンデーズ打線もライナーズ有馬投手の立ち上がりを攻め、先頭の川上選手がセンター前安打で出塁。三番長

浜選手のバントが内野安打となると四番江口選手もセンター前へ運び、すかさず同点とする。更にアウト一つ挟んで六番野田選手、七番鳥羽選手、八番宮口選手が何れもセンターに弾き返す見事な連打で3点を挙げ逆転に成功。勢いに乗るサンデーズ打線は、二回にも3四球に鳥羽選手のこの日2本目のタイムリー等で3点を追加し、完全に試合の主導権を奪う。何とか早く反撃したいライナーズだが、三回から登板したサンデーズ砂場選手を攻めあぐねる。三回こそ2四球、2WPで1点を返すが、その後は適度に荒れるボールを前にして安打を重ねることができない。鋭い当たりがセカンド正面を突いたり、または好守に阻まれる等の不運も重なり、三回以降は無安打のままゲーム終了。初回に強烈な連打を連ねたサンデーズナインにとって、ビールの旨い日曜の朝となった。
(記事：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦、写真：岩崎)



一回表、ライナーズ二番明瀬航選手の先制HR。



一回裏、同点打を放つサンデーズ四番江口選手。



フルスイングのサンデーズ土田選手。



サンデーズ打線に打ち込まれるライナーズ有馬投手。



大量失点でライナーズ山崎捕手も重労働。



江口投手の後を受けたサンデーズ砂場投手。

奈多グラウンド ブルーマーリンズの若手・ベテランが団結し2勝目！！

三友クラブ (3勝2敗) 02010 3 足達●、平田一中内、柿崎

ブルーマーリンズ (2勝2敗1分) 1030X 4 佐藤○ー横山(祥)

3BH: 井上(紘)(ブルー) 2BH: 佐藤(ブルー) 盗塁: 佐藤(ブルー)

一回裏ブルーマーリンズは、幸先良く先頭の井上(広)選手が内野安打で出塁し二番の送りバントにより得点圏にランナーを進めると三番佐藤選手の右前打で理想的な先制点をあげる。二回表三友クラブは、先頭の五番竹岡選手が四球、送りバント、四球で二死一二塁として九番坂本(耕)選手の右安打で満塁とすると、この回制球に苦しむブルーマーリンズ佐藤投手から連続四球の押し出しで逆転。しかしここで終わらないのが今年のブルーマーリンズ。三回裏、二番井上(紘)の左翼越え三塁打で出塁すると、この試合投打で活躍を見せる三番佐藤選手の二塁打で同点に追いつき、五番横山(祥)選手の遊強襲安打の後に女房役としてチームを引っ張る六番横山(健)選手の痛烈な当たりは遊撃手正面に飛び万事休すかと思われた。が、打球はグラブの下を通り抜けブルーマーリンズがこの回に3点を奪い逆転に成功。四回表、三友クラブも先頭打者の七番足立選手が四球で出塁しWPや代打柿崎選手の遊内野安打で無死一三塁とチャンスメイク。ここで現在打率上位の谷崎選手が代打で登場し反撃ムードが高まったが凡退。WPにより1点差に詰め寄るが、粘りの投球を続ける佐藤投手の前に後続が断たれこの回終了。四回裏からリリーフ登板の平田投手が0点に抑え、反撃したい三友クラブであったが五回表も制球を取り戻した佐藤投手に抑えられゲームセット！逆転に次ぐ逆転の試合はブルーマーリンズの今年2勝目で決着がついた。ブルーマーリンズは、試合前からの集合・ダッシュ・バッティング・守備練習などを見ていると意識の高いチームになっており、強く勝てるチームの流れになってきた今年のブルーマーリンズが何勝するのか秘かに興味が湧く。三友クラブは、個人能力が高く下馬評では三友クラブの勝利と思われていたので痛い1敗となった。互いにチャンスを作りどちらが勝ってもおかしくない試合展開で見応えのある試合だった。(記事・写真: 新町パイレーツ 桐島涼)



好投したブルーマーリンズ佐藤投手。



軽快な動きを見せるブルーマーリンズ左右間コンビ。



守備の要！井上(広)遊撃手。



勝利に向け円陣を組むブルーマーリンズ。



セーフティーバントを決める井上（広）選手。



ベンチから立って指示を出す小柳監督。



盗塁を決めるブルーマーリンズ佐藤選手。



やっちゃった！三友クラブ八尋選手。



三塁打を打った井上（紘）選手。



リリース登板の三友クラブ平田投手。



豪快なスイングの三友クラブ中内選手。



バントを試みる三友クラブ大坪選手。



活躍のブルーマーリンズ若手組！左から佐藤、横山（健）、井上（紘）、井上（広）選手。

雁レク2 奈多クラブのエース今林瑠生投手圧巻の完投勝利

レッドサンデーズ（1勝5敗）0000002 2 塚本●ー荒口

奈多クラブ（4勝1分）040000X 4 今林（瑠）ー今林（卓）

2BH：今林（賢）（奈多ク）

両チーム無得点で迎えた二回裏奈多クラブ先頭の六番江里口選手が左飛球を放つと左翼手が落球。続く安部選手はバントヒット、更に続く久保選手は右前安打で先制点。その後も今林（賢）選手の左二塁打などで、この回4点を奪う。そこからはしばらく両チームとも静かなテンポで試合が進む。奈多クラブのエース今林（瑠）投手に無安打に抑え込まれていたレッドは五回表二死から八番荒口選手が中前へ安打を放ちチーム初安打とし。更にチャンスは作ったが無得点で終了した。最終回の七回表先頭の五番塚本選手が相手失策で出塁すると続く六番土師選手が右前打を放つと右翼手が後逸してしまいボールは点々と外野を転がっていく。その間に土師選手は本塁へ帰り2点を返した。が、その後が続けずそのまま試合終了となった。勝った奈多クラブは今林（瑠）選手の圧巻の投球による完勝だった。敗れたレッドはエース塚本投手の粘りの投球により接戦には持ち込めたが、二回裏に二本のバントヒットを許してしまった事が結果的に四失点に繋がった事が悔やまれる。

（記事：新町ウインズ 野中一史、写真：安藤昌一）



2安打6奪三振と好投の奈多クラブ今林瑠生投手。



序盤の失点が悔やまれるレッド塚本投手。



ファールフライを捕球する奈多クラブ今林卓也投手。



レフトエラーの間に好走塁の奈多クラブ江里口選手。



ライト前へ先制打を放つ奈多クラブ久保選手。



バントを試みるレッド田村選手。



7度の守備機会をさばいたレッド川原（陸）選手。



最終回、追撃のライト前を打つレッド土師選手。

第10週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第10週、7月17日は4試合が行われました。

青松園Bの三苦フレンズ対奈多フェニックス戦は、未だ勝ち星の無いフレンズが山口投手を擁して先制はされるものの五回表を終わって4-2とリードしていたが、五回裏のフェニックス西藤選手のソロ、最終六回裏二死ランナー一塁からの松本選手の逆転サヨナラ2ランの2発で見事勝利。11奪三振の山口投手の力投を以てして

も今季初勝利には手が届かなかった。フェニックスは負けなしの4勝目（1分）。五回表から登板のフェニックス松本投手は投げてでも無安打無失点の好投がサヨナラを生んだ。

青松園Aの雁ノ巣ライナース対奈多サンデーズ戦は、初回二番明瀬航選手のソロで先制したライナースだったが、サンデーズ打線が一回裏からライナース有馬投手に襲い掛かる。6安打で3点を取ると、二回以降も攻撃の手を休めず13安打11得点。サンデーズは、三回表に先発江口投手から砂場投手にリリーフして以降、ライナース打線は無安打（1失点）に抑え2-11で勝利。砂場投手は1失点ながら前回10四死球の余韻が残る投球だったので、次回はしっかり修正して欲しい。サンデーズ宮口選手は3打数3安打1打点の活躍。毎週佐賀県武雄からやってくる鳥羽選手も2安打3打点といいところで活躍を見せた。

奈多グラウンドの三友クラブ対ブルーマーリンズ戦は、初回三番佐藤選手のタイムリーで先制したブルーマーリンズだったが、二回にその佐藤投手が制球を乱し4四球2押し出しで簡単に逆転を許す。しかし今年は違うブルーマーリンズは三回表に二番井上（紘）選手、三番佐藤選手の連続長打を足掛かりに再びリードすると、三友クラブの反撃を1点に抑え、4-3で勝利。ブルーマーリンズは引き分けを挟んで2連勝で2勝2敗1分の勝率を5割とした。笑顔がまぶしい若手が噛み合って接戦をものになっているが、ベテランのハツラツさも大きく貢献している。

雁レク2のレッドサンデーズ対奈多クラブ戦は、初回奈多クラブが守備妨害でチャンスを潰すも、二回裏レフトエラー、3連打で先制すると二番今林賢人選手の二塁打、三番今林瑠生選手の犠牲フライで一挙4得点。投げては奈多クラブ今林瑠生選手が六回まで1安打と完封ペースだったが、七回表エラーで先頭打者が出塁すると、六番土師選手のライト前をトンネル。打者走者も生還し2点差となるも後続を打ち取り2-4で奈多クラブの勝利。レッド塚本投手の投球も良かっただけに二回の失点が悔やまれる。

前述のレッド対奈多クラブ戦の守備妨害のプレーは、無死一二塁で遊ゴロの際、進塁しようとする二塁走者と打球を処理しようとする遊撃手が衝突し、これが守備妨害か走塁妨害かという事例。

ここで Wikipedia を参照にすると、

走者の妨害

次のような場合は走者の守備妨害であり、原則としてその走者はアウトになる。

まだファウルと決まらないままファウル地域を動いている打球の進路を、どんな方法であろうとも、故意に狂わせた場合。(7.09b)

走者が打球を処理しようとしている野手を避けなかったか、あるいは送球を故意に妨げた場合。(7.08b, 7.09j)

走者がまだ野手に触れていないフェアボールにフェア地域で触れた場合。(7.08f, 7.09k) ただし、以下の場合には、走者はフェアボールにフェア地域で触れたという理由でアウトは宣告されない(7.09k)。

もちろん、このようなフェアボールであっても故意に蹴ったりした場合は守備妨害でアウトが宣告される。

また、一度内野手に触れた打球を守備しようとしている他の野手を走者が妨害した場合は、7.08b の適用で、この走者がアウトになる場合もある。(7.08f【注1】)

1. 一度でも内野手が触れたフェアボールに触れた場合

2. 投手を除く内野手の股間や横を通過したフェアボールに、そのすぐ直後で触れた場合で、この打球に対して他の内野手が守備する機会がないと審判員が判断した場合

3. インフィールドフライが宣告された後に、塁についている走者に飛球が触れた場合

走者が明らかに併殺を阻止しようとして、故意に打球を妨げたり、打球処理しようとしている野手を妨げたりした場合。この場合、走者がアウトになるのはもちろん、野手がどこで併殺を狙おうとしていたかに関係なく、打者走者もアウトになり、他の走者には進塁が認められない。(7.09f)

また、走塁妨害の欄では、

野手は、「ボールを持って走者をアウトにしようとする」ときや「打球や送球を処理する」ときを除いて、走者のために走路を譲らなければならない。

走路を譲らなかったために走塁を妨げると、走塁妨害となる。

ここで「打球や送球を処理する」とは、打球や送球が野手に向かってきていて、これを捕球しようとするための動作、もしくはボールをつかんで送球し終わるまでの動作をいう。

したがって、例えば、内野ゴロに野手が飛びついたが結局捕ることができず、そのまま横たわっている状態で走者の走塁を遅れさせた場合には走塁妨害となる[2]。

野手が打球を処理しているときは野手の守備が優先であり、走者が野手を避けなければならない。

このような場合に野手と走者が接触したときは、故意と偶然とに関わらず、原則として走者の守備妨害となる。

野手が投げた送球が故意ではなく誤って走者に当たった場合はボールインプレイであり、走塁妨害・守備妨害のいずれにもあたらない。

とあります。

この試合セカンドを守っていた私も「このケースは走塁妨害なのでは？」と思っていましたが、審判チームのウインズの判断は正しかったのですね。

ルールはお互いの安全を守るためにあります。

本塁上でのブロック禁止（コリジョンルール）もその一つでしょう。

というわけで、進塁しようとする走者は、捕球（送球）しようとする守備を避けて走るようにお願いします。